

在伯50周年記念公演 NAK・北川名誉会長

「国益の文化イベント」に
ブラジル日本アマチュア歌謡連盟(NAK)の北川朗久名誉会長(74、大阪)の在伯50年を祝うディナーコンサートが、公益民間団体(OSCIP)のサンパウロ州歴史的遺産再生保護院(I.P.H.)から「国益の文化イベント(projeto cultural de interesse nacional)」に正式に認められた。これにより同イベントに資金を提供する企業は税制上の恩典を受けることになる。10年以上にわたる慈善公演での日系福祉施設支援も評価された。北川氏は「私を育てくれた、応援してくれた仲間達に心から感謝。これからもコロニアのため力を尽くしたい。コンサートは私の活動の集大成」と意気込んでいる。



報告と案内のため来社した北川氏(中央)、NAK関係者の皆さん

父・母の日発表会に250人 準備、片付けも生徒らが



舞台で演技を披露する生徒達

ピラール・ド・スールの祝辞、上芝原校長による合唱と7~16歳の児童各クラスの発表による合奏の発表曲は幼稚園児は遊戯、低学年は踊り、中学生は劇「One Love」。合奏では生は踊り、中学生は劇として両親への感謝の言葉を述べ、「舌切りすすめ」を披露した。1年生は劇「アリとキリギリス」を発表。7、8歳が中心で今入学したばかりの生徒も多くのものの、練習で覚えた日本語のセリフを元気に言つ姿が見られた。

日本語学校(上芝原実夫校長)主催の「母の日・父の日発表会」が11日午後、同地文協会館であつた。保護者や卒業生など例年を大きく上回る25人の発表が行われた。発表が行なわれた。今年の全生徒による拍手が上がった。

鎧野直樹学務理事によると、今年の全生徒による拍手が上がった。

